

# 図書館が論文・研究データの公開を支援します！

## オープンサイエンスとは

社会に広く開かれた研究活動を指します  
研究過程のデータや成果の論文等を公開し  
社会の誰もがアクセスできる状態にすることで  
論文や研究データがより長く・幅広く利活用されることや  
研究活動の透明性を高めるといった効果も期待されており  
この流れは世界的に広まっています

名古屋大学附属図書館では  
**オープンサイエンスの推進を支援**するため  
オープンアクセス・サイエンスの概要や  
研究データ管理・公開のための情報をまとめた  
**Webページを公開**しています。

内容は今後も随時更新予定ですので  
是非ご覧ください！

名古屋大学附属図書館  
オープンサイエンス・オープンアクセス支援  
<https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/oap/os/index.html>



# NAGOYA Repository

<https://nagoya.repo.nii.ac.jp>

## NAGOYA Repository とは

名古屋大学の研究成果を電子的に収集・保存し、インターネットを通じて広く世界に発信する仕組みです。本学の教育・研究活動によって得られた成果を社会に還元し、もって学術研究及び社会に貢献することを目的として運営されています。

## 登録できる成果物

- ・ 学術雑誌論文の原稿ファイル
- ・ 学内で発行されている紀要・研究会誌
- ・ 教材
- ・ 会議録・会議発表資料
- ・ 学位論文
- ・ 研究データ（容量が大きい場合は相談）
- ・ 未公開資料（公開可能なもの）

・・・など

## 登録のメリット

- ・ デジタルデータの散逸が防げます。大学が責任を持って永続的に保存します。
- ・ CiNiiなどの学術データベースに情報が流れ、視認性が高まります。Googleなどの検索で上位にヒットしやすくなります。
- ・ 利用統計データが得られます。
- ・ DOIを付与できます。引用に使えます。

## 登録方法

**論文**：電子メールで原稿ファイルと論文情報を図書館宛にお送りいただくだけで登録できます。掲載条件などは図書館で確認します。

**研究データ**：ファイルと登録申請書をお送りください。

詳しくはWebの「登録要領」をご覧ください。

## 著作権譲渡している論文は？

著作権譲渡先の出版社が許諾すれば、登録可能です。欧米の出版社の多くは、査読が反映された原稿ファイルの登録を認めています。リポジトリについての方針を公表していない学会・出版社は、図書館で確認します。

## オープンアクセスポリシー (OAP)

教職員は、平成28年4月以降に出版された学術論文（本学在籍時の成果に限る）について、オープンアクセスにするか、不可能な場合はその旨を申し出ることになっています。

NAGOYA Repository に原稿ファイルを登録することで、無料でオープンアクセスになりますので、積極的にご利用ください。もちろん、OAP適用範囲外の論文も登録可能です。

OAPの詳しい説明：<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/oap/index.html>

## 学術データポリシー

名古屋大学では令和2年10月20日に「名古屋大学学術データポリシー」を制定し、名古屋大学における学術データの管理ならびに公開および利活用の原則を定めました。

<https://icts.nagoya-u.ac.jp/ja/datapolicy/index.html>

その他、研究室発行雑誌の電子化、学生の博士論文の登録についてなど、お気軽にご相談ください

ご依頼・問合せ先：附属図書館リポジトリ担当

電話：052-789-3691 E-Mail：[lib-os@t.mail.nagoya-u.ac.jp](mailto:lib-os@t.mail.nagoya-u.ac.jp)